

教育講演

イレウスに対する高圧酸素療法

恩田昌彦

(日本医科大学第一外科)

高圧酸素療法は血漿中の溶存酸素または組織中の酸素分圧を上昇させ、全身的または局所的な低酸素状態を改善し、あるいは体内にあるガス容積の物理的な圧縮作用に伴う効果などを目的とした治療法である。

したがって、腸管内のガスの貯溜、あるいはさまざまな要因による腸管の低酸素状態などが病態の直接的に主体をなすものと考えられる腸閉塞症すなわちイレウスは、本療法のよい適応症の一つと考えられて、はやくから試みられている。

ところで元来イレウスはその閉塞の原因、腸管の閉塞部位、あるいはその種類を異にしているばかりでなく、腹膜炎あるいはまたほかの諸臓器の障害を伴っていることも少なくないので生体における諸反応も極めて複雑にならざるを得ない。

したがって一口にイレウスに対する高圧酸素療法といっても、本症の病態のいかなる点に高圧酸素療法の効果を期待して施行するかによってその用い方も異なってくるのは当然である。今回は、腸閉塞症に対する高圧酸素療法の原理、報告された治療成績などの概要と教室における研究成績をもとにして、イレウスの高圧酸素療法の概要を麻痺性イレウス、癒着性イレウス、絞扼性イレウスあるいはイレウス・ショックなどについて述べてみたい。